

活動レポート 2024

活動レポート 2024

【発行】2025年3月

東北地方ESD活動支援センター

【業務時間】平日9:00～17:30

〒980-0014
宮城県仙台市青葉区本町3丁目2-23 仙台第2合同庁舎1F

TEL:022-393-9615 FAX:022-290-7181

E-mail:info@tohoku-esdcenter.jp

URL:https://tohoku.esdcenter.jp/



メールマガジンのご案内

東北環境パートナーシップオフィス（EPO東北）と東北地方ESD活動支援センターが環境やESDに関するお知らせ、催事情報、助成金・募集情報をお届けしています。

発行：月2回（第2週、第4週）

登録：ウェブサイトの「メールマガジンご案内」よりご登録ください。

ミーティングスペース

ESD、SDGsをテーマにする活動の打合せ、会議、小規模勉強会にご利用ください。詳細は事務局にご確認ください。

利用料金：無料 利用時間帯：10:00～17:00（平日）

利用人数：16名まで



Education for Sustainable Development

Activity Report

ESDとは？



ESDはSDGs(持続可能な開発目標)達成に向けて、
持続可能な社会づくりの担い手を育む学習・教育活動のことです。

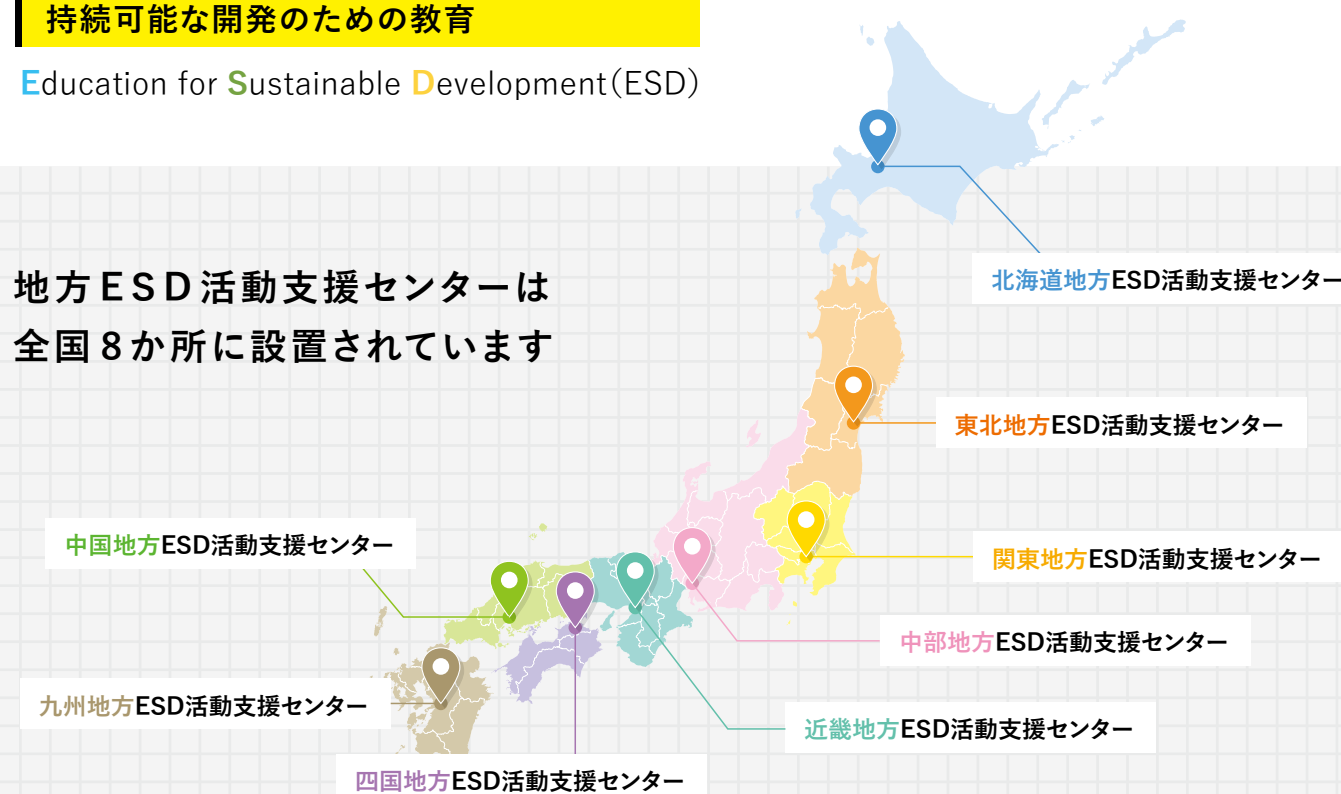
世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等人類の開発活動に起因する様々な問題があります。問題解決の鍵として注目されているのが「教育」です。持続可能な社会の実現のためには、全ての人が「暮らし方」や「社会の仕組み」を持続可能なものに変えていく必要があります。ESDとは問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して、世界中で取り入れられている教育方針です。

日本国内のESD活動を支援するため、文部科学省と環境省によってESD活動支援センターが開設されました。東北地方ESD活動支援センターは東北のESD活動・実践者を支援します。(開設日:2017年7月3日)

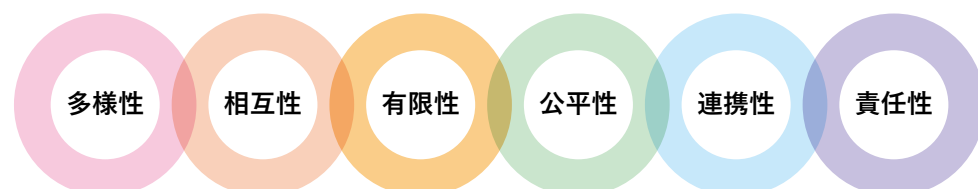
持続可能な開発のための教育

Education for Sustainable Development(ESD)

地方ESD活動支援センターは
全国8か所に設置されています



ESDで目指すこと 【6つの視点】



ESDは実践を通して学ぶ点が特徴です。地域や世界の問題を知り、自ら原因を考え、「自分の問題」として行動する「実践する力」の育成を目指しています。

ESDの変遷

【世界の動き・ESDの国際枠組み】



【国内の動き】

- ESD国内実施計画
- ESD活動支援センター設置
- 地方ESD活動支援センター設置
- 学習指導要領の改訂(ESDが全体の基盤となる理念として掲げられた)
- 第2期ESD国内実施計画(SDGs達成のための教育の推進が示される)

SDGs(エス・ディー・ジーズ)

持続可能な開発目標
(SDGs:Sustainable Development Goals)

2015年9月の国連サミットで採択された国際目標です。国連加盟193か国が2030年までに達成することを目指し、17の目標と169のターゲットを掲げました。経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会の実現を目指しています。貧困、紛争、教育、食糧、環境など、私たちが取り組むべき地球規模の課題をテーマとし、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを理念に掲げています。

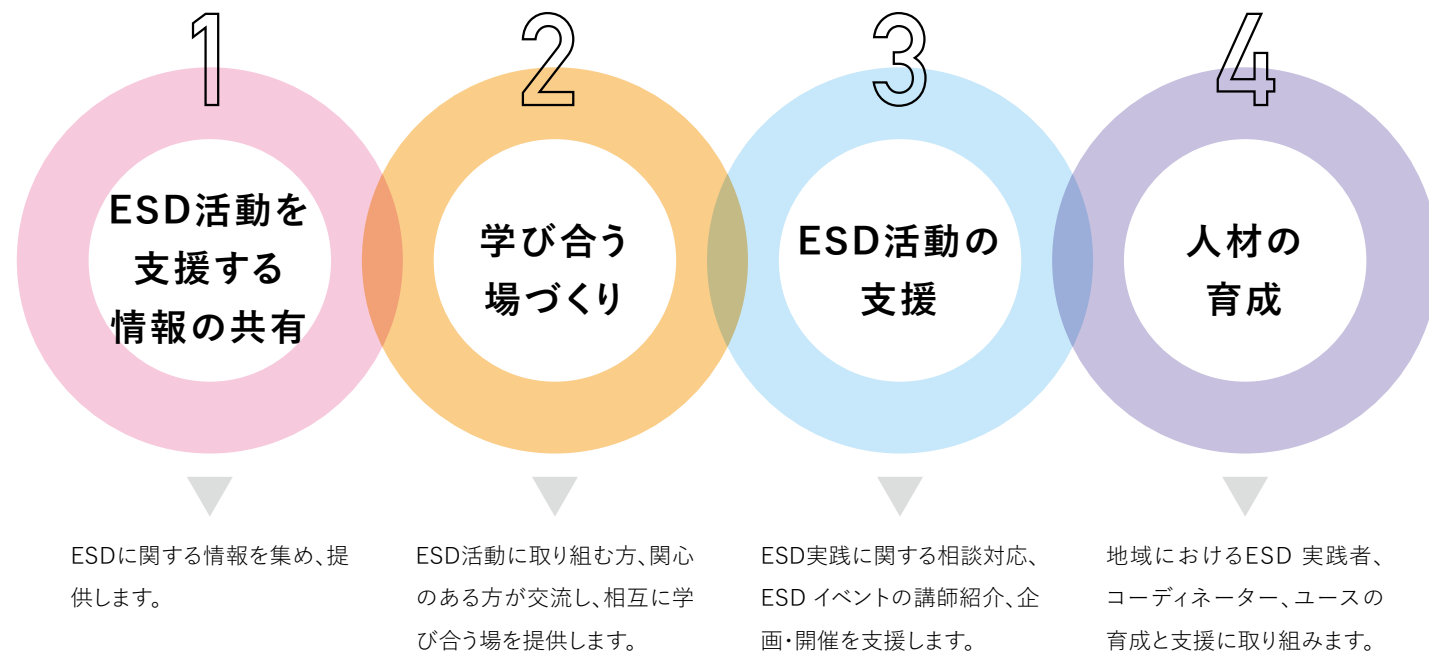


ESDとSDGsの関係

SDGsの17の目標のうち目標4に「質の高い教育を」という教育に関するゴールが設定され、ESDはターゲット4.7に位置づけられています。第74回国連総会においてSDGsの17全ての目標の実現に寄与するものであることが確認され、「ESDはSDGs実現の鍵である」と表現されています。

東北地方ESD活動支援センター

4つの機能



皆でつくる、東北の人と
情報が交流する場

ESD活動に取り組む人、これから取り組もうとする人、関心のある人が東北中から集まる『東北ESD/SDGs フォーラム』(年1回)を開催しています。多くの皆様のご協力をいただきながら、近年はオンライン配信、期間限定のアーカイブ配信も行っています。

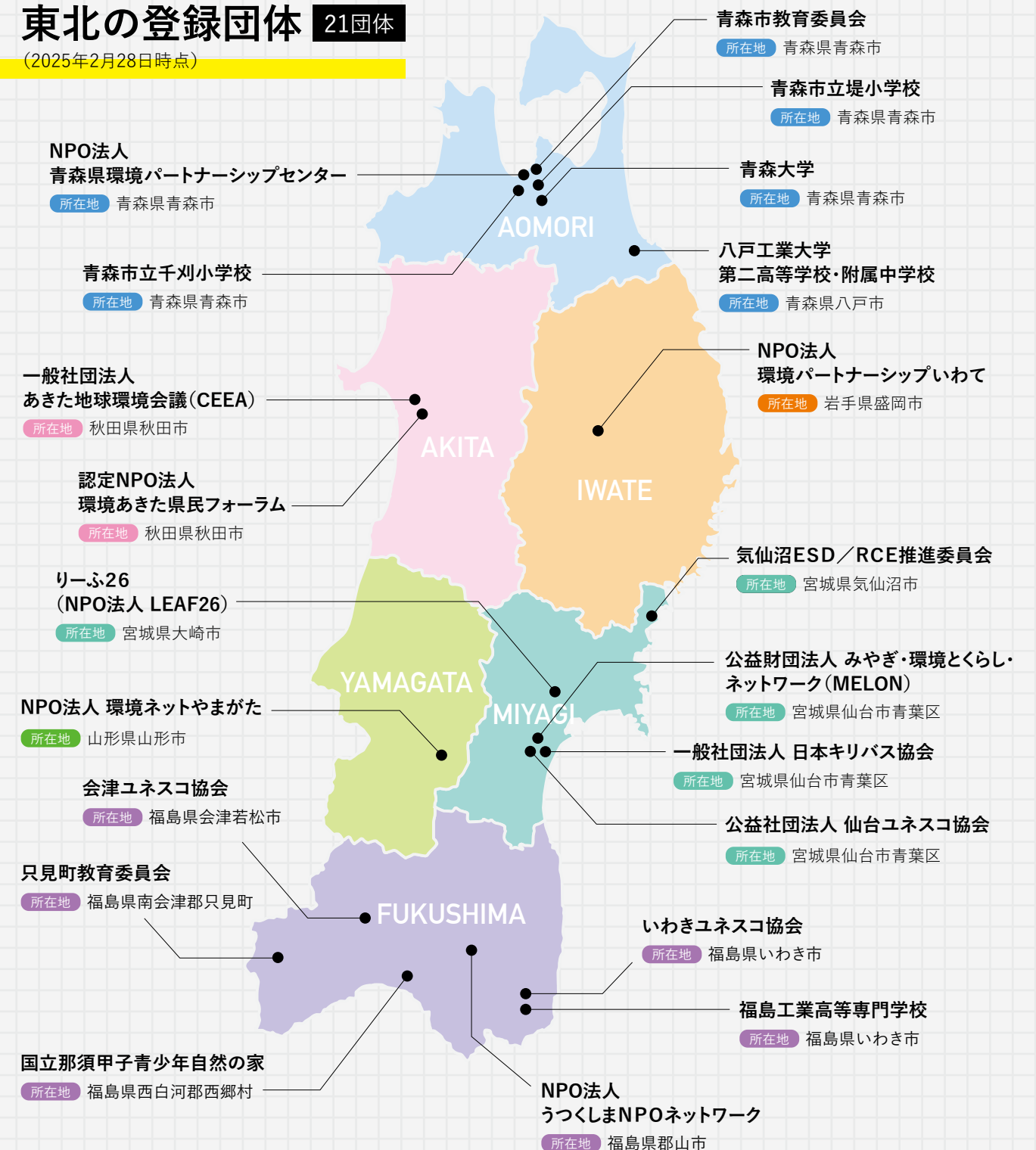
地域ESD活動推進拠点とは

地域におけるESD活動を支援・推進する役割を担う組織・団体に「地域ESD活動推進拠点」として登録いただく制度です。登録は2017年11月に開始され、教育委員会、社会教育機関、学術研究機関、企業、NGO／NPO、公益法人等多様なセクターから全ての都道府県で201団体が登録しています(2025年1月15日時点)



東北の登録団体 21団体

(2025年2月28日時点)



民間も企業も行政も、地球の未来を考え
パートナーシップで行動しよう



NPO法人 青森県環境パートナーシップセンター



2003年、青森県で初めての 地球温暖化防止など、環境活動を 中心に行うNPO法人として設立

未就学児から大人まで、幅広い層の皆さんに、地球温暖化のような世界の環境問題からごみや食品ロス削減といった暮らしの環境についてまで、学びの場を提供しています。

地球環境と身の回りの課題を結びつけるため、地域の環境とSDGsを内容に取り込んだむつ湾キューブ、食育キューブ、あおもりSDGsかるた、カーボンクエストin青森など、オリジナル教材も制作して活用しています。また、むつ湾の絵コンクールを実施しており、毎年200人近い子どもたちが海の絵を寄せてくれています。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について
上: むつ湾の環境と沿岸市町村を学ぶ教材「キューブdeむつ湾」
下左: なぜかかるたにはみんな熱くなる
下中・右: 浅虫の東側海岸には大量のごみが漂着します

〒030-0861 青森県青森市長島2-1-5 みどりやビル 9F
電話 017-721-2480
FAX 017-723-7631
E-mail info@eco-aomori.jp
URL http://www.eco-aomori.jp



活動紹介

キューブdeむつ湾、むつわんかるた、 DVD「むつ湾を守ろう」 むつ湾海岸清掃、むつ湾の絵コンクール



むつ湾の自然が読み込まれています



むつ湾の絵コンクール
チラシ



海岸清掃に出る前に海ごみの学習

プロジェクト概要

2016年に青森市がむつ湾週間(6/1～6/21)を制定したことを記念して、むつ湾の絵コンクールを開催して、今年は第8回を数えます。また、年に2回、地域の中学生や高校生と一緒にむつ湾の海岸清掃を行っています。EPO東北と協働で2016年に制作したオリジナル教材「キューブdeむつ湾」は地球温暖化防止活動推進員の完全手づくりで、今も小学校で活用されています。未就学児児童向け「むつわんかるた」はむつ湾沿岸の保育園などで好評です。2022年にはアマモをテーマに、子ども向けDVD「むつ湾を守ろう」を制作しました。2023年の猛暑は、むつ湾のホタテにも大きな被害をもたらしました。このプロジェクトは、子ども達が身の回りの自然の変化が地球環境と直接つながっている事を、自分ごととして知る機会となっています。

ESD実践のポイント

むつ湾週間制定の背景には、子どもたちの日常から海が遠くなっている危機感がありました。学校にプールができて、海で泳ぐことがなくなり、漁業の衰退とともに食卓に魚がのぼることも減っていきなで、縄文の昔から私たちの命を育てて来たむつ湾を、もう一度感じて、大切にしたいという願いから、様々なプロジェクトが動き始めました。毎年実施している海岸清掃では、地域の小学校、中学校、高校の子ども達に、むつ湾のアマモの生態やマイクロプラスチックなど、海にまつわる座学を実施、それから海岸に出て清掃活動をしします。終了後に一人一人に参加証を渡す事で、むつ湾を守る実践者として、たとえ将来、むつ湾を離れて暮らす事になっても、ふるさとの海を大切に思う気持ちを持ち続けて欲しいという活動しています。

担当者からのメッセージ

年間相当数の講座を行って10年以上たちます。小学生の時に講座で環境を学んだ子はのべ1万人を超えるでしょう。次は彼らが自分の子どもに教える立場になって欲しい。地球の未来は彼らの未来ですからね。子どもの柔軟な感性で捉えた地球のこと、むつ湾のこと、今日のその体験1回がその子を劇的に変えることはなくても、積み重ねる事で社会が変わっていくことを願っています。
というか、大人の責任として、積み重ねたいと思っています。

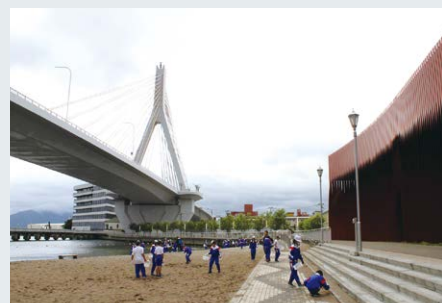


代表理事
渋谷 拓弥さん



かしこく
ゆたかに

たくましく



青森市立千刈小学校



「チーム千刈」

児童、教職員、保護者が一丸となり

千刈地区から青森市のSDGsを進めたい

本校は、JR青森駅から徒歩15分程の中心街にある小学校です。創立は昭和12年と古く、今年で87年を迎えます。戦前から地域の教育の中心的役割を果たし、地域に根差した教育を展開してきました。2023年からESDを校内研修の軸に据え、教職員と子どもたちが共に学び合い、高め合い、様々な教科や活動において、SDGsを意識した教育を行っています。青森市に活動拠点を置く環境活動団体とも協力し、SDGsを教育に取り入れ、かしこくゆたかでたくましい人材の育成にあたっています。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について

上：2年生。外部講師と国語「たんぽぽのちえ」まとめ
下左：6年生。函館市国際水産・海洋研究センターにて
下中：青森ベイブリッジ下の駅前ビーチ清掃活動の様子
下右：5年生が制作に携わった「拾い箱」。街のごみ調査を進めている

〒038-0015 青森県青森市千刈1丁目10-20

電話 017-766-0946

FAX 017-766-0947

E-mail sengarisyo@aomoricity.ed.jp

URL <https://sites.google.com/aomoricity.ed.jp/sengarisyo/>



活動紹介

ESD～可能性は無限大～ どんな教科も どんな学習も SDGsにつながっている



5月。中学生と一緒に地域清掃活動



6年生。修学旅行。「あ、あそこにいるよ!」

プロジェクト概要

2023年より各学年でESDカレンダーを作成し、年間を通してどの教科・活動のどのタイミングでSDGsを取り入れるか、どの関係団体に連携を依頼するか、などを検討しながらESDを進めています。各学年ともSDGsをいかに各教科学習に取り入れるか趣向を凝らし、学習を進めています。また、中学校区で同じ日を学区清掃の日と定め、小中学生が一緒になってまちの清掃活動に取り組んだり、総合的な学習の時間に学んだ内容をスライドにまとめ、中学校と校区内の小学校2校(本校を含む)をオンラインでつなぎ、互いのまとめ発表を聞いて意見交換したりするなど、小中連携にも取り組んでいます。PTA活動では、アルミ缶回収やテトラパックのリサイクルなどに取り組み、小学校だけにとどまらず、地域全体でSDGsに取り組んでいる千刈地区です。

ESD実践のポイント

6年生は、3年時から継続してSDGsの学習に取り組んできました。4年時には陸奥湾に打ち寄せるマイクロプラスチックを拾って分別、調査したり、地曳網を体験して海の豊かさを実感し、調査したことを市の環境フェアで発表したりするなどして、SDGsを身近に感じてきました。学びの集大成である修学旅行では、函館市の国際水産海洋総合研究センターを訪れ、海洋汚染や気候変動との関連、新しい水産資源の開発などを学び、これまでの学びを俯瞰した学習に取り組んでいます。5年生は、外部団体と協力し、街のごみを拾って分別し、街から川へ、そして海へと流れ出るごみの調査活動を進めています。他学年でも、環境教育アドバイザーの講師の先生とともに、各教科や道徳など単元学習から発展させSDGsにつながる学習を全校で展開しています。

担当者からのメッセージ

恥ずかしながら、はじめは「SDGsって?ESDって?」からのスタートでした。「チーム千刈」で学びを進めていくうちに、どの教科もどの学習もSDGsにつながる可能性をもっていると、確信できるまでになりました。現在担任している子どもたちが「SDGsの本を読んで、家庭学習ノートにまとめたい」「休み時間に中庭のごみを拾いたいからごみ袋とビニル手袋が欲しい」と申し出るまでに成長しました。何事も、続けていくことが力になると信じて、2030年へ向かう子どもたちを育てたいと思います。



研修主任
工藤 哉子さん